聖母の被昇天

福音朗読　ルカ１・39-56

2024.8.15　18：30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭　高木健次神父

今日、わたしたちは聖母被昇天、マリア様がこの地上の生涯を終えられたのちに体も魂も直通で天の栄光に迎え入れられたという教義を記念する祭日のごミサをお捧げしています。マリア様が偉大というよりも、マリア様の中で行われた神様の御業を讃えるということが第一と言いましょうか。だから、被昇天って、マリア様の場合は受け身なんです。神様の恵みを受け入れられた。

でも、じゃあマリア様はすごくないのかというと、そうではなくて、その神様の恵みを受け入れて、マリア様の中で主ご自身が、神様が働かれることのために、ご自分を神様に明け渡したというところに、やっぱりマリア様のすごさがあるんです。受け身でありながら。

わたしたちは本当の意味で神様の前に受け身になれないという者たちなんです。そこで、マリア様の姿の中にわたしたちの目標だし、神様が導こうとされるゴールを見るということになるわけです。わたしたちもでも洗礼を通してマリア様と同じ恵みをいただいていると信じています。それは、イエス様の命をいただいているわけです。しかし、同じ恵みであっても、その恵みが現実に力を発揮する、恵みが現れるためには、わたしたちの側(がわ)が、イエス様がわたしたちの中で働かれるということに同意して、明け渡す、その必要があるんです。それができているのがマリア様、できていないのがわたし、ということになるでしょう。

だから、洗礼は恵みだから、洗礼を受けさえすれば、わたしたちは何も変わらなくて良いのだとは言えないんです。恵みとして、例えば、昔の神学者が言うたとえですけれども、視力っていう、見るっていう力、恵みを自然な体としていただいていても、見ようとしなければその恵みは力を発揮しないというか、ある意味で宝の持ち腐れです。筋肉っていう恵みをいただいていても、その筋肉を用いて歩こうとしなければ、何かをつかもうと体を動かそうとしなければ、恵みをいただいていたとしても、その力は発揮できない。

わたしたちが洗礼を通していただいたのはイエス様の命。それは既に頂いている。でも、今度はそのイエス様が働いてくださるということにわたしたちが自分の心を明け渡すというか、同意することなしに、今まで通り自分の思いの中だけで行動しているならば、イエスの命をいただいても、その命が力を発揮するということはないと言わなければならないんです。地獄に行くとか天国に行くとかの話ではなくて、わたしたちはそれぞれの立場でこの世において平和を実現する者になるように神様に呼ばれて、その招きに応えた。だからこそ、イエス様

の命の恵みをいただいた。だけど、いただいただけで心の中にそれを片付けておいているならば、イエス様が働かれることはない。わたしたちの同意なしにイエス様が働かれることはないというわけです。

でも、わたしたちはほんとに肝心なときにそのイエス様が働いてくださるようにお願いする、同意することを忘れてしまうんです。愛さなければならないときに、でも、相手の態度が気に食わないとか、いろいろな状況の中で、平和を実現するまさに肝心なときにこそ、自分の思いとか、自分の言い訳とか、望みとかが前面に出てきて、イエス様の働き、イエス様の望み、イエス様の導きっていうものを締め出してしまうっていうことがあります。

そういう時こそ、わたしたちがイエス様を忘れている時にこそ、マリア様の取り次ぎ、マリア様がわたしたちに代わって祈ってくださって、そしてもう一回イエス様と共に歩むっていうことを思い出すことができるように、今日その取り次ぎを、わたしたちが祈ることを忘れてしまう時のために、願いたいんです。

８月４日の日曜日はちょうどわたしたちの守護聖人であるビアンネの記念日と重なっていたので、ミサの最後の部分で聖ビアンネとともに祈るっていう祈りをいたしました。聖ビアンネの「マリア様への祈り」っていう祈りを一緒にお祈りしましたけど、聖母への祈りの中でビアンネは、「自分がもう死ぬという時になって、意識もないから信仰告白もできなくなった時に、わたしの代わりにどうぞ信仰告白してください。もう意識がなくなって『わたしの魂をあなたに委ねます』って言えなくなった時に、わたしの代わりにマリア様、どうぞ言ってください」っていうふうに、自分の死の直前、意識がなくなる、そして祈ることができなくなった時に自分に代わってマリア様がお祈りしてくれるように頼んでいました。

でも、わたしたちは、死ぬ時とか意識がなくなっている時だけではなくて、ほんとにいろんな時に、自分中心の考えになっている――腹を立てた時とか、自分の思いで頭がいっぱいになった時に、祈れない時に、あるいはイエス様のことを忘れてしまう時に、「どうぞイエス様、わたしの中で働いてください」というふうにわたしに代わってマリア様がお祈りしてくださいっていうことを祈っても――聖ビアンネは、死ぬ直前、それ以外の時は自分でいつもお祈りできる方だったからかもしれませんけど――わたしたちはいろんな時に、イエス様に助けを求めることを忘れてしまう、あるいはイエス様が自分の中で働いてくださるということを、そのために呼ばれたことを忘れてしまうその時に、どうぞわたしの代わりにそれを、わたしの中でイエス様が働いてくださるようにお祈りしてください、いろんな瞬間のために祈ってくださいって、マリア様の取り次ぎに委ねるということができるんじゃないかなあと思います。

今日、日本の教会では平和のためにも祈る日に当たっているわたしたちが、マリア様の祈りに支えらえて、そしてイエス様の恵み、助けをいただき続けることを忘れることなく、もし忘れたならばマリア様が代わりにそれを願ってくださ

る、そのことを願いながら、一人ひとりがそれぞれの場で平和を実現する――小さなことでも――者に変えられていきますように、取り次ぎを願ってこのごミサを通して力をいただきたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC　http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi

携帯　http://www.koenji-catholic.jp/mobile/

参照：　　聖ヨハネ・マリア・ビアンネによる聖母マリアへの祈り

至聖なる乙女マリアよ、
常に聖三位の御前におられる方、
いつのときもわたしたちのために至聖なる御子に祈って恵みを与えてくださる方、
わたしたちが願うすべてのことのためにお祈りください。
助けてください。お守りください。
わたしの代わりにお祈りください。
わたしの犯したすべての罪やあやまちのために赦しをいただいてください。
特に臨終のときにお助けください。
そして、理性が働いているどんなしるしも最早なくなったとき、
わたしを勇気付け、すべての悪霊からお守りください。
わたしの名によって信仰を宣言してください。
永遠の救いに適う者としてください。
神の慈しみに決して失望しませんように。
悪しき霊に打ち勝てるようお助けください。
イエス、マリア、ヨゼフよ、
わたしの魂を御手に委ねますと最早言えなくなったとき、
わたしに代わっておっしゃってください。
最早人の慰めの言葉が聞こえなくなったとき、
慰めを与えてください。
御子の御前で裁きを受けるとき、
わたしのそばにいらしてください。
煉獄で罪の償いをしなければならないなら、
わたしの死後、わたしのためにお祈りください。
友人たちにわたしのために祈る気持ちを起こさせることにより、
神の御前における幸せにすぐさま与ることができますように。
助けてくださいますように。
選ばれた者たちが一致している天の御国にわたしを導き、
祝福を受け、神とあなた自身を代々に至るまで讃えることができますように。
アーメン。